

# 文科省、教員採用実態点検結果



文部科学省は大分・教員採用不正事件を受けて、各都道府県・指定都市教育委員会に対して、教員採用選考のあり方の点検を指示しました。そして9月9日、8月29日時点の点検状況についての報告結果を公表しました。

全教はこれまで、教員採

**主張** **新聞全教**

**解説**

用行政の民主化のために、教員採用選考における公開と公正の確立が不可欠と主張してきました。教員の養成・採用のあり方を検討した文部省・教員養成審議会も第3次答申（1999

試験問題ですら、全国のすべての教育委員会が非公開のなかで行われてきました。そうした異常な実施状況のもとで、教員採用における「カネ、コネ」のうわさは全国どこでも絶えるこ

す。教員採用行政を民主化し、いっそうの公開、公正な制度づくりの重要な一歩となるものです。しかし今回の報告結果を見ると、教員採用行政のいっそうの民主化をすすめる

れる教員像の募集要項への掲載や、筆記、実技、論文、面接の配点割合のみの公表をもってすべての選考基準の公表とされているところも多数あり、これでは公表とは到程いえません。

今後公表された試験問題、採用選考基準の妥当性を点検することが必要となりますが、その作業を実施するうえでも、都道府県ごとの試験問題や配点の公開、成績の本人への開示、さらに面接の実施方法とその評価のあり方、総合的な評価をするうえでの面接の取り扱いも含む、採用選考基準の全面的な公開が求められます。

## このままでは不十分だ 選考基準の全面公開を

9年)で、「採用選考の透明性を高めて公教育への信頼を確保するため、学力試験問題等の公表、採用選考基準の公表を検討することが必要」と述べていました。かつて教員採用は、採用

とはありませんでした。今回の報告結果では、調査対象となった64都道府県・政令指定都市の教育委員会すべてで試験問題・解答の公表が実施され、配点の公表は56教委に及んでいま

うえて重要な、採用選考基準の公表の点では、きわめて不十分です。選考基準のすべての公表は31教委と半数以下にとどまっています。選考基準のすべてを公表となっても、求めら

るべき重要な、採用選考基準の公表の点では、きわめて不十分です。選考基準のすべての公表は31教委と半数以下にとどまっています。選考基準のすべてを公表となっても、求めら

(全教書記次長 吉田正美)